

# SE10-8A7B1ファームウェアバージョンアップ

## 1.30Bへのバージョンアップ時のご注意 ならびに新機能ご紹介

明京電機株式会社  
1.2版(2025/08作成)

POSE(POnit SEquence manager)(SE10-8A7B1)を平素ご利用いただき、誠にありがとうございます。

ファームウェアを「1.20A」やそれ以前のバージョンから「1.30B」にバージョンアップを行うお客様は、「1.バージョンアップの前に」の手順を実行した後、バージョンアップを行ってください。

また、追加機能、変更機能については、4. 新機能ご紹介および変更点のご説明をご覧ください。

**注意:**書換後ダウングレードを行うことはできません。ユーザーHTML機能, PPPoE機能をご利用のお客様は、現状のままご使用ください。

### 1. バージョンアップの前に

1.20Aやそれ以前のバージョンからバージョンアップされる場合、バージョンアップ前に、必ず[1]～[3]の手順に沿って設定変更を行ってください。(1.30Aからバージョンアップされる場合は不要です)

また、バージョンアップ後に再設定できるように設定内容をお控えください。

新バージョンではWEB画面上で設定できるようになります。(ユーザーHTMLを除く)

#### [1]ユーザーHTML無効化

新バージョンではユーザーHTMLの設定をすることができません。

そのため、バージョンアップの前にユーザーHTMLの機能を「無効」にします。

「通信設定-通信詳細設定」の「カスタマイズ設定」で、ユーザーHTMLの「設定」をクリックします。

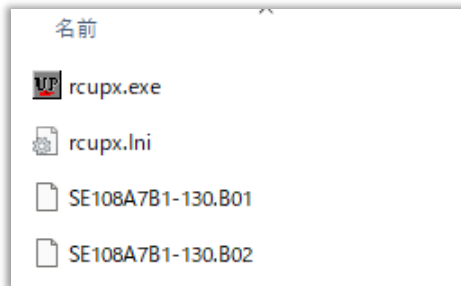
「ユーザーHTML登録」のページに移動後、「機能」の項目を「無効」にします。その後、ページ下部の「適用」をクリックします。

## 2. バージョンアップの方法

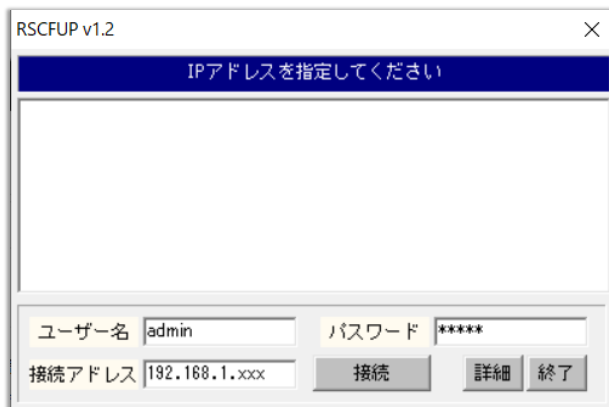
バージョンアップファイルを使用してバージョンアップを行います。

バージョンアップファイルは、明京電機株式会社ホームページ  
<http://www.meikyo.co.jp/archive/> でダウンロードが可能です。

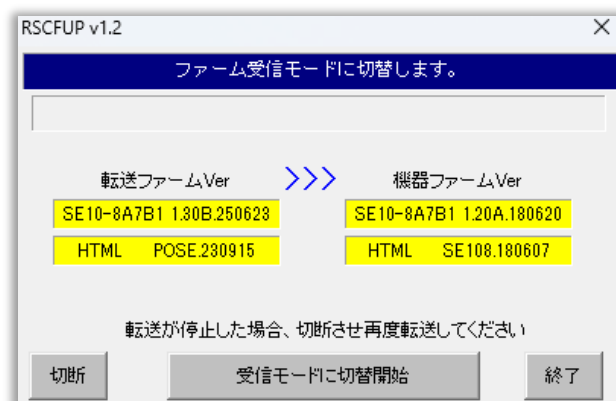
設定用PCにバージョンアップファイルをダウンロードし、解凍します。  
4つのファイルは同じフォルダに入れた状態で以降の作業を進めてください。



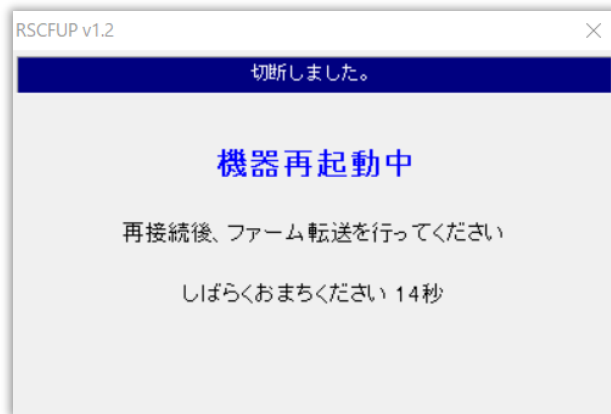
本機と同じネットワークに設定用PCを接続し、rcupx.exeを実行します。  
接続アドレスに本機のIPアドレスを入力します。  
Admin権限のユーザーIDとパスワードを入力し、[接続]をクリックします。



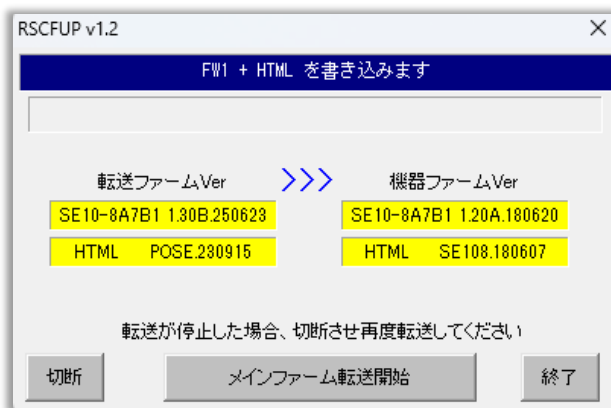
「ファーム受信モードに切替します。」と表示された場合は、[受信モードに切替開始]をクリックします。



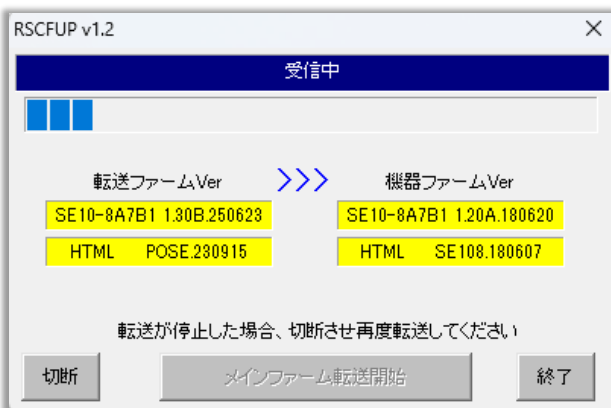
「機器再起動中」が表示されますので、しばらくお待ちください。



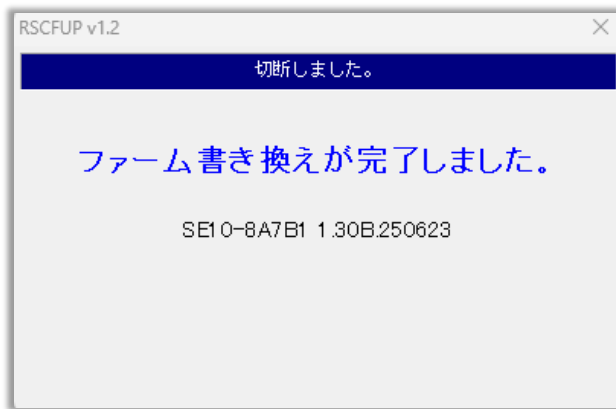
「FW1 + HTMLを書き込みます」と表示されましたら、「メインファーム転送開始」をクリックします。



転送が完了するまでしばらくお待ちください。



「切断しました。」と表示されましたら、×で画面を閉じます。



書き換え後、自動でウォームスタートが行われますので、そのままご使用になれます。

### 3. バージョンアップ後のご注意

1.20Aを含む以前のバージョンからバージョンアップされた場合、メール通知、本体SWボタンに関する変数仕様が変わります。これらの機能をご使用になっているお客様は、バージョンアップ後必ず初期化をしてからご使用ください。

#### 【初期化の方法】

- 0) 本体からDCジャックを抜くか、ACアダプターをコンセントから抜きます。
- 1) 本体前面DIPスイッチ1と3だけON(下)にします。
- 2) ACアダプターをコンセントに接続し、ACアダプターのDCジャックを本体のDCに接続し電源を供給します。
- 3) 本体前面LINK LEDが5秒間点灯します。その間に本体前面RESETスイッチを押します。  
(LINK LEDが消灯してしまったときは0)からやり直してください。)
- 4) 初期化が成功したときはLINK LEDとACT LEDが点灯します。
- 5) 初期化後はメンテナンスモードにて「同意」するところから始まります。  
DIPスイッチ3をONにして、192.168.10.1にアクセスしてください。

以前よりメール通知機能をご使用の方は、改めて設定が必要です。

## 4. 新機能ご紹介および変更点のご説明

### 《主な追加機能》

《1.20Aを含む以前のファームウェアをご使用のお客様》

- ・接点情報延長機能にて、接点入出力の動作モード「レベル」「パルス」を組み合わせることができるようになりました。
- ・Ping監視に伴う接点ON, OFF動作について、監視結果に接点動作を追従することができるようになりました。
- ・送信メール 本文1行目も選択可能になりました。  
※1.20Aからのバージョンアップ後には「初期化」またはメールの項目を再設定していただく必要があります。
- ・MPMP制御でのコマンド制御が可能になりました。
- ・SNMP TRAPの表現修正。  
<https://www.meikyo.co.jp/archive/#mib> から取得できる最新のMIBファイルをご利用ください。

《1.30Aのファームウェアをご使用のお客様》

- ・接点入力がレベルに設定されている場合の信号認識時間を、従来の秒単位に加え、msec単位へ切り替えることが可能となりました。

### 《主な変更点》

《1.20Aを含む以前のファームウェアをご使用のお客様》

- ・**ユーザーHTML機能削除**  
1.30Aから脆弱性対策としてユーザーHTML機能を削除しました。
- ・内部カレンダーが更新されました。(2023/1-2032/12)

《1.30Aのファームウェアをご使用のお客様》

- ・**PPPoE機能削除**

## 《変数の差異》

《1.20Aを含む以前のファームウェアをご使用のお客様》

■機能追加により、以下の変数がListに追加されています。

debOlWdogFollow

Ping監視結果に接点ON, OFF動作の追従(デフォルト:0,0,0,0,0,0,0,0 [無効])

mailSendClock

送信メールの内容のうち,日時又は積算時間(ReadOnly)

centerCmdHostID

MPMPによるコマンド制御で使用するID(3箇所設定可能)

centerCmdPassword

MPMPによるコマンド制御で使用するパスワード(3箇所設定可能)

■使用されていない変数のため、以下の変数をListから削除しました。

terminalId

userHtmlEnabled

userHtmlPort

userHtmlLen

userHtmlMode

userHtmlFile

userHtmlBtnSizeW

userHtmlBtnSizeH

userHtmlInterval

userHtmlText

userHtmlAddress

userHtmlOlOnBtnName

userHtmlOlOffBtnName

userHtmlOlRebootBtnName

userHtmlOlReverseBtnName

userHtmlNvOnBtnName

userHtmlNvOffBtnName

userHtmlSet

userHtmlCode

userHtmlRefreshEnabled

userHtmlRefreshContent

《1.30Aのファームウェアをご使用のお客様》

■機能追加により、以下の変数がListに追加されています。

nvInOnThresholdUnit

接点入力 認識時間の単位選択(0[デフォルト]:秒 1:msec)

nvInOnThresholdMsec

nvInOnThresholdUnitが1(msec)の場合の接点入力 認識時間(msec単位)

■使用されていない変数のため、以下の変数をListから削除しました。

pppMode

pppUserId

pppPassword

pppMyMrU

pppNoReplyInterval

pppConnectInterval

pppReconnectInterval  
pppLcpEchoInterval  
pppLcpEchoCount  
pppIcmpEchoInterval  
pppIcmpEchoCount  
pppStat  
pppAddress  
pppConnTime  
ispName

## 《新機能詳細》

### [1] 接点情報延長機能 接点入出力「レベル」「パルス」の組み合わせ対応

従来の接点情報延長機能は、動作モードが「レベル」のみ対応していました。

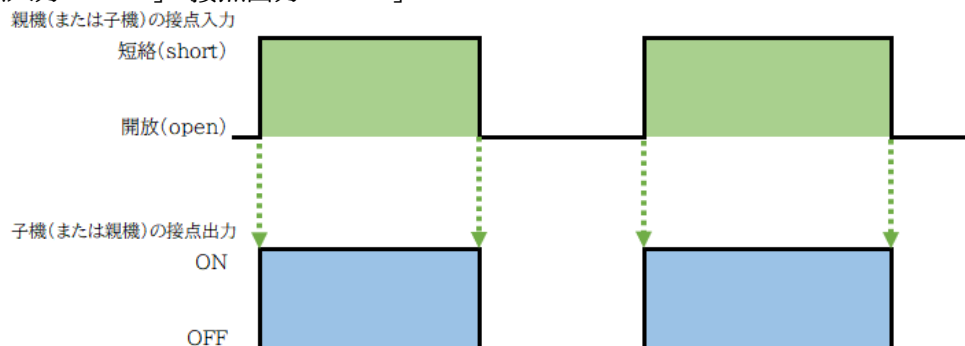
1.30Aでは、新たに接点入出力の動作モード「レベル」「パルス」の組み合わせに対応しました。

#### ●動作モード組み合わせ時の波形

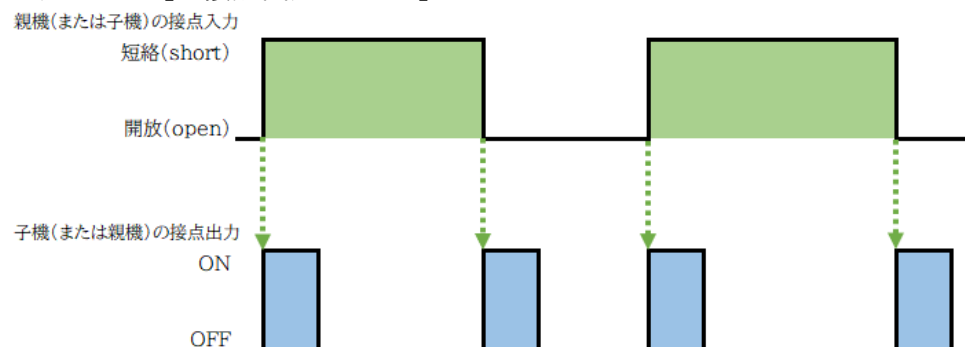
各組み合わせの波形概略図については、①～④の図をご覧ください。

※実際の接点出力の波形は、設定したパルス幅、ON遅延設定値や極性の設定によって異なります。また、接点入力が「パルス」モードの場合、WEB画面のON、OFF表示はパルス入力ごとに「ON」→「OFF」→「ON」・・・と切り替わるトグル表示となります。接点入力の短絡、開放と、WEB画面表示のON、OFFや、コマンド実行で得られる接点状態と異なりますのでご注意ください。

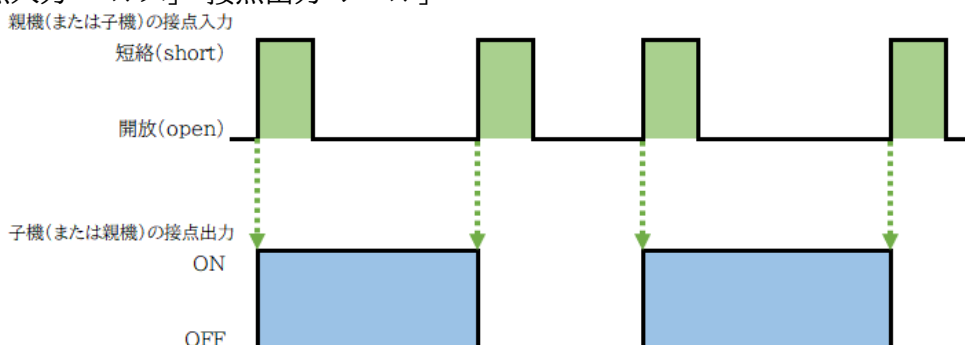
##### ①接点入力「レベル」×接点出力「レベル」



##### ②接点入力「レベル」×接点出力「パルス」

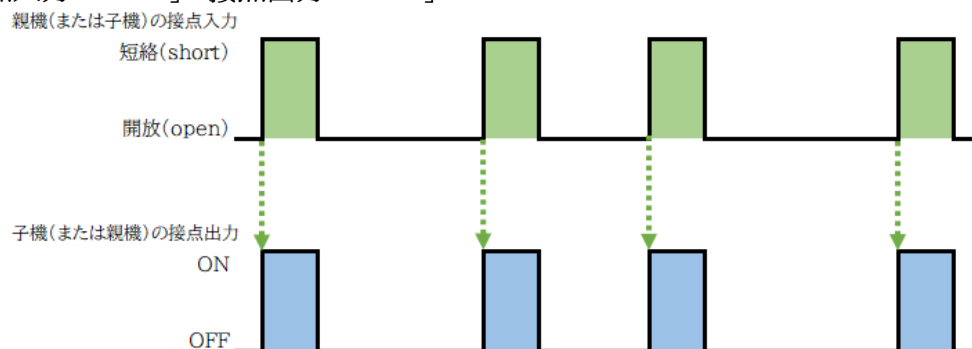


##### ③接点入力「パルス」×接点出力「レベル」





#### ④接点入力「パルス」×接点出力「パルス」



### ●動作モードの設定

[基本設定]-「接点出力設定」-「動作モード」

[基本設定]-「接点入力設定」-「動作モード」にて「レベル」・「パルス」を設定します。

デフォルトは「レベル」で、「パルス」に設定し[適用]をクリックすると、パルス幅の設定が可能となります。

接点出力設定					
No.	接点出力名称	ON遅延 ※1	ON遅延 ※2	ON遅延 ※3	
1	NV Output1	1	1	0	
2	NV Output2	2	2	0	
3	NV Output3	3	3	0	
4	NV Output4	4	4	0	
5	NV Output5	5	5	0	
6	NV Output6	6	6	0	
7	NV Output7	7	7	0	
8	NV Output8	8	8	0	

動作モード ※4	1	2	3	4	5	6	7	8
	レベル	レベル	レベル	レベル	レベル	レベル	レベル	レベル

※1 全接点ON命令時 ※2 電源投入時 ※3 スケジュール時  
 ※4 動作モードを「パルス」に設定する場合は、事前に接点出力をOFFにする必要があります。

接点入力設定		
接点入力名称	1	NV Input1
	2	NV Input2
	3	NV Input3
	4	NV Input4
	5	NV Input5
	6	NV Input6
	7	NV Input7
	8	NV Input8

動作モード	1	2	3	4	5	6	7	8
	順極性	レベル	順極性	レベル	順極性	レベル	順極性	レベル
	逆極性	レベル	逆極性	レベル	逆極性	レベル	逆極性	レベル

連動接点制御コマンド	Short	Open
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		

## ●接点情報延長機能の設定

[基本設定]-[詳細設定]-[連動設定]-[接点情報延長設定]にて、親機・子機の設定を行います。

### 親機子機共通設定

機能

☐有効
☒無効

親機ポート番号

0

### 親機設定 (DIPスイッチ 全OFF)

機能

子機IPアドレス1

子機IPアドレス2

子機IPアドレス3

子機IPアドレス4

子機IPアドレス5

子機IPアドレス6

子機IPアドレス7

子機IPアドレス8

登録アドレス限定

☐有効
☒無効

遠隔接点入力状態変化確定回数

5

回 x20ms

延長モードHTTP機能

☐有効
☒無効

無通信監視時間

1440

分

### 子機設定 (DIPスイッチNo.2のみON)

親機側IPアドレス

エラーコード

0 (正常)

遠隔接点入力

11111111

状態変化通知マスク

1 2 3 4 5 6 7 8

遠隔接点出力

☒
☒
☒
☒
☒
☒
☒
☒

状態変更許可フラグ

☒
☒
☒
☒
☒
☒
☒
☒

遠隔接点入力1名称

Remote NV Input 1

遠隔接点入力2名称

Remote NV Input 2

遠隔接点入力3名称

Remote NV Input 3

遠隔接点入力4名称

Remote NV Input 4

遠隔接点入力5名称

Remote NV Input 5

遠隔接点入力6名称

Remote NV Input 6

遠隔接点入力7名称

Remote NV Input 7

遠隔接点入力8名称

Remote NV Input 8

遠隔接点出力1名称

Remote NV Output 1

遠隔接点出力2名称

Remote NV Output 2

遠隔接点出力3名称

Remote NV Output 3

遠隔接点出力4名称

Remote NV Output 4

遠隔接点出力5名称

Remote NV Output 5

遠隔接点出力6名称

Remote NV Output 6

遠隔接点出力7名称

Remote NV Output 7

遠隔接点出力8名称

Remote NV Output 8

接点入出力連動許可

親機 > 子機▼

親機/子機間通信

keep-alive▼

死活監視の有効化

60

秒

親機/子機間通信

20

秒

タイムアウト時間

3

keep-aliveパケット送信間隔

3

keep-aliveパケット再送信回数

1 2 3 4 5 6 7 8

メール通知設定フラグ

1 2 3 4 5 6 7 8

遠隔接点入力

☐
☐
☐
☐
☐
☐
☐
☐

メール通知設定フラグ

1 2 3 4 5 6 7 8

遠隔接点出力

☐
☐
☐
☐
☐
☐
☐
☐

遠隔接点入力状態変化の種類別

ALL▼

メール通知可否設定

ALL▼

本機(※)接点入力状態変化の種類別

ALL▼

メール通知可否設定

※この設定は本機を単体で使用(接点情報延長を無効)時にも有効です。

以下に示した以外の項目については、接続機器や動作、必要な通知に合わせて設定を行ってください。

### 親機子機共通設定

機能 : 有効に設定します。(デフォルト 無効)

親機ポート番号 : 親機・子機共通のポート番号を設定します。

※親機として動作中もWEBメニューからの設定・操作を行う場合は、延長モードHTTP機能を[有効]に設定してください。デフォルトは無効です。

### 子機設定(DIPスイッチ2のみON)

親機側IPアドレス : 親機のIPアドレスを入力します。

## [2] Ping監視時・POPサーバー監視の接点ON追従, OFF追従

1.30Aでは, Ping監視時・POPサーバー監視のON動作, OFF動作について「追従」の選択ができるようになりました。

### ●従来のPing監視時・POPサーバー監視の動作

Ping監視・POPサーバー監視時の動作は, 正常から異常になった場合のみです。一度動作した後は, Ping監視・POPサーバー監視が正常となっても動作しません。

監視設定

PING監視 POPサーバー監視

接点出力1~4 設定 接点出力5~8 設定

☐ 詳細設定 ※ 入力項目は半角英数のみ有効

監視先	DG	送信	無答
1 192.168.1.120	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

動作 ON 無動作

▲ 接点出力番号

PING 送信間隔 (分) 1

・ (監視先) に対してICMPを(PING 送信間隔)分毎に1個送信します  
(送信)回数内に(無答)回数回、応答が無いと異常と判断します。  
異常と判断した監視先が(対象)数に達すると異常と判定し(動作)を実行します。  
・ DGをチェックする事により、Default Gateway(ルータ等)を監視対象にします。  
・ 動作は、正常から異常になった場合のみです。異常から正常・回復になっても動作しません。

### ●新機能のPing監視時の動作

[監視設定]-「Ping監視」または[監視設定]-[POPサーバー監視]にて設定します。  
Ping監視・POPサーバー監視時の動作を, 「ON」または「OFF」に設定し, 「追従」にチェックを入れます。

監視設定

PING監視 POPサーバー監視

接点出力1~4 設定 接点出力5~8 設定

☐ 詳細設定 ※ 入力項目は半角英数のみ有効

監視先	DG	送信	無答
1 192.168.1.120	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

動作 ON 追従 無動作

▲ 接点出力番号

PING 送信間隔 (分) 1

・ (監視先) に対してICMPを(PING 送信間隔)分毎に1個送信します  
(送信)回数内に(無答)回数回、応答が無いと異常と判断します。  
異常と判断した監視先が(対象)数に達すると異常と判定し(動作)を実行します。  
・ DGをチェックする事により、Default Gateway(ルータ等)を監視対象にします。  
・ 動作は、正常から異常になった場合のみです。異常から正常・回復になっても動作しません。

これによりPing監視時の接点出力の動作は、監視結果に追従ようになります。  
 設定による動作は以下の表をご覧ください。

	正常(Ping応答あり)	監視異常(Ping無応答)	回復(Ping応答あり)
無動作	無変化	無変化	無変化
ログのみ	無変化(ログを残す)	無変化(ログを残す)	無変化(ログを残す)
ON,追従なし	無変化	ONに変化	ON(無変化)
ON,追従あり	ON→OFFへ	OFF→ONへ	ON→OFFへ
OFF,追従なし	無変化	OFFに変化	OFF(無変化)
OFF,追従あり	OFF→ONへ	ON→OFFへ	OFF→ONへ

※無応答回数,On遅延,Off遅延の設定によって,各動作のタイミングは異なります。

以上